

令和 3 年 6 月 18 日現在

機関番号：20105

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K18316

研究課題名（和文）「生活表現」としての農畜産業の景観価値解明と持続可能性

研究課題名（英文）Elucidation of landscape value and sustainability of agricultural and livestock industry as an expression of life

研究代表者

大島 卓（OSHIMA, Makoto）

札幌市立大学・デザイン学部・講師

研究者番号：20766331

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：明治期以降日本に導入された西洋農法を基盤とし、現在も経営が続いている歴史的農畜産業施設群を対象として、当該施設の歴史的変遷や社会背景の整理、空間・施設の構成要因の把握、運営実態などに関する実地調査、ヒアリング調査、資料蒐集調査を実施した。各種調査を通して得られた情報を分析し、歴史的農畜産業施設が位置する自治体を含めた周辺地域の土地利用変遷が、当該産業施設の景観形成にどのような影響を与えているか、また地域社会・地域生活にどのような影響を与えているか、地域特性に根ざした景観価値を考察する上で必要な基礎的情報を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の独自性は、農畜産業を地域の文化と捉え、「生活表現」としての景観価値評価による地域再生の可能性に着目し、実務の領域とアカデミズムの領域を横断するデザインの実践的方法論構築を目指す点にある。生業・空間・建築等を包含する景観的価値を評価し、地域・観光資源として保全を進めていくためには、文化的価値と経済的価値を両立させる高度なデザイン方法論が必要であり、本研究で得られた知見は、未評価の地域資源発掘から有効な地域活性化方策の提示に至る、今後の日本における農畜産業の持続可能性を示唆するものとする。

研究成果の概要（英文）：We conducted field surveys, interviews, and data collection surveys of historical agricultural and livestock facilities based on Western agricultural methods introduced to Japan after the Meiji era, and which are still managed today, in order to understand the historical transition and social background of the facilities, the factors that make up the space, and the actual state of operation.

Through the analysis of the information obtained through the various surveys, we were able to obtain the basic information necessary for considering the landscape value rooted in regional characteristics, such as how the land use transition in the surrounding area, including the municipality where the historical agricultural and livestock industry facilities are located, has affected the landscape formation of the relevant industrial facilities and how it has affected the local community.

研究分野：ランドスケープデザイン

キーワード：農畜産業景観 ランドスケープデザイン 観光事業 近代化産業遺産

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

研究申請者はこれまで、地域社会に埋もれていると想定される未評価の環境資源の認識・評価・活用に向けた実践的デザイン手法構築を目指し、主として農畜産業施設、特に明治期以降日本に導入された西洋農法を基盤とする歴史的農畜産業施設群（福島県岩瀬牧場等）を研究対象とし、施設が有する歴史的価値（主として産業遺産価値）に着目して研究を推進してきた。

現在農畜産業を生業とする地域では、放棄地の増加、山林の荒廃、獣害、空き家の増加、限界集落の発生、担い手の不足、雇用の確保、生活交通サービスの撤退、地域医療の確保、伝統文化や伝統工芸の喪失など様々な地域課題を抱えている。こうした諸課題は、戦後の高度経済成長を通じて徐々に複合的に進展してきた。さらに日本全体が人口減少局面・市場縮小局面になって、これら諸課題はいよいよ深刻になり、農村地域において大きな変革を迫られている。

一方で、グローバル資本主義の限界が認識されるようになり、新しい公共、持続可能性、多様性、地域に根ざした生活文化といった価値観が見直されてきている。

本研究では農畜産業を、人間の生活に必要な資材を生産する産業であると同時に、地域文化：「生活表現」としての現象であるという認識の元、文化的営為の側面：人間の営みが有する多面的機能・要素に改めて着目し、地域再生に資する今後の農畜産業の在り方についてランドスケープデザインおよび観光事業の観点から研究を遂行している。

2. 研究の目的

本研究では、明治期以降日本に導入された西洋農法を基盤とし、現在も経営が続いている歴史的農畜産業施設群を研究対象とし、地域再生に取り組むための前提条件となる、生業と風土によって形成されてきた地域固有の景観価値を明らかにしていく事を目的としている。

3. 研究の方法

(1) 農畜産業施設の景観価値の解明

明治期以降日本に導入された西洋農法を基盤とし、現在も経営が続いている歴史的農畜産業施設群を対象として、①歴史的価値が明らかにされている事例（町村農場：北海道江別市、小岩井農場：岩手県雫石町）、②民間資本への払下げによって現在も経営が続いている事例（岩瀬牧場：福島県鏡石町、千本松牧場：栃木県那須塩原市、山縣農場：栃木県矢板市）、③明治時代に民間資本によって開設され、現在に至る事例（神津牧場：群馬県下仁田町）、④その他の事例（宮内庁御料牧場：栃木県高根沢町）を抽出し、実地調査を実施、景観的特徴を明らかにしていく。

(2) 地域への波及、観光・運営実態の把握

景観価値の解明調査に加え、観光・運営実態調査を実施し、地域社会・地域生活への波及効果等を把握する。

4. 研究成果

(1) 実地調査およびヒアリング調査の実施

①福島県岩瀬牧場での実態調査の実施：福島県鏡石町に開設されている岩瀬牧場の視察を実施。牧場敷地内の構成要素（歴史的建造物群、生産・観光施設群、境界木などの植栽配置など）の現状を確認し、明治期から経営が続いている歴史的牧場施設としての活用実態について知見を得ることができた。

②北海道町村農場での実地調査およびヒアリング調査の実施：歴史的変遷や社会背景（農場の歴史、地勢・立地特性、生業・生産技術、社会背景）の整理、空間・施設の構成要因（サイトプラン、建造物、生産器具類、周辺環境との関係）の把握、運営実態の整理（運営組織、運営事業・手法、年間計画、広報計画など）を実施した。

③千葉県三里塚御料牧場記念館での実地調査およびヒアリング調査の実施：日本における西洋式官営牧場の先駆的事例である下総御料牧場に関する展示資料内容の確認および記念館職員へのヒアリングを実施した。

④岩手県小岩井農場でのヒアリングおよび文献調査の実施：小岩井農場の成り立ち、歴史的経緯、現在の企業運営、国指定重要文化財に指定された生産施設群の現状などについて、農場内資料館館長にヒアリング調査を実施した。また小岩井農場所管の耕作面積図・絵地図・風景写真・文献資料等について、資料の全体数、種類、名称、年代、記載内容などについて確認を進めていき、撮影調査を実施した。

(2) 資料（文献・地図・空中写真）蒐集調査の実施

土地利用変遷に関する研究調査の実施として、歴史的農畜産業施設が位置する自治体を含めた周辺地域の土地利用変遷が当該産業施設の景観形成にどのような影響を与えているか、地図資料に加え入手可能な空中写真を用いて分析調査を実施した。施設配置、道路線形、土地利用など種別ごとの変遷過程を整理し、地域特性に根ざした景観価値を考察する上で必要な基礎的情報を得ることができた。

その他、①国立国会図書館にて、歴史的農畜産業施設の他戦後の観光牧場事例の所在自治体地誌について文献調査を実施した。各自治体の歴史的展開、地勢の概要、該当施設周辺の土地利用変遷に関連する項目（交通網、社会インフラ、産業構造など）について情報を蒐集した。

②各自治体図書館（岩手県立図書館、東京都中央図書館等）にて、歴史的農畜産業施設（岩手県小岩井農場）の所在自治体の地誌について文献調査を実施した。当該施設所在地の郷土史料から、農畜産業、林業など地域の主幹産業の変遷、産業発展に重要な役割を果たした周辺幹線道路（街道）の位置や利用状況に関する学術的知見を得ることができた。

③宮内庁書陵部にて、「御料牧場」など歴史的農畜産業施設に関する文献資料、特定歴史公文書を閲覧し、写真撮影を実施した。

(3) 主な研究成果

当該期間で得られた研究成果の一部を、下記の2雑誌および学内論文集『札幌市立大学研究論文集』に寄稿した。

①「明治期以降に開設され、現存する牧場の歴史的・産業遺産的価値について」：畜産の情報平成30年8月号 No. 346：独立行政法人農畜産業振興機構, 2-6

②「明治期以降に開設され、現存する牧場の歴史的展開について」：酪農乳業速報 2018年夏季特集：株式会社酪農乳業速報, 20-25（図-1）

③「北海道七重官園における明治初期農畜産業施設の土地利用の特徴」：札幌市立大学研究論文集 第14巻 第1号（2020）：札幌市立大学, 13-22（図-2, 3）

(4) 得られた成果の位置づけ

本研究の独自性は、農畜産業を地域の文化と捉え、「生活表現」としての景観価値評価に基づいた地域再生の可能性に着目し、実務の領域とアカデミズムの領域を横断するデザインの実践的方法論構築を目指す点にある。

都市における産業施設群、炭坑関連施設に関わる保存活用の手法や事業主体の役割等について論じている研究や棚田に代表される農業景観等の保全を対象とした研究の蓄積は比較のみられるが、牧場を含む農畜産業施設を地域資源として認識し、観光資源として保全していくための方法論に言及している既往研究は事例数が限られている。

生業・空間・建築等を包含する景観的価値を評価し、地域・観光資源として保全を進めていくためには、文化的価値と経済的価値を両立させる高度なデザイン方法論が必要であり、本研究調査で得られた知見は上記方法論構築の一助として位置づけられる。

(5) 今後の展望

本研究は農畜産業景観を、地域文化：「生活表現」の視覚的投影として捉え、地域再生に資する将来的な具体的方策へと展開するものであり、今後関連事例の調査から得られた知見を元に「未評価の地域資源の再評価」＋「保全プロセスへの学術成果の活用」＋「地域のオーセンティシティに根ざした生産・消費・保全の調和」を体現する地域再生デザインの手法提示につなげていきたい。

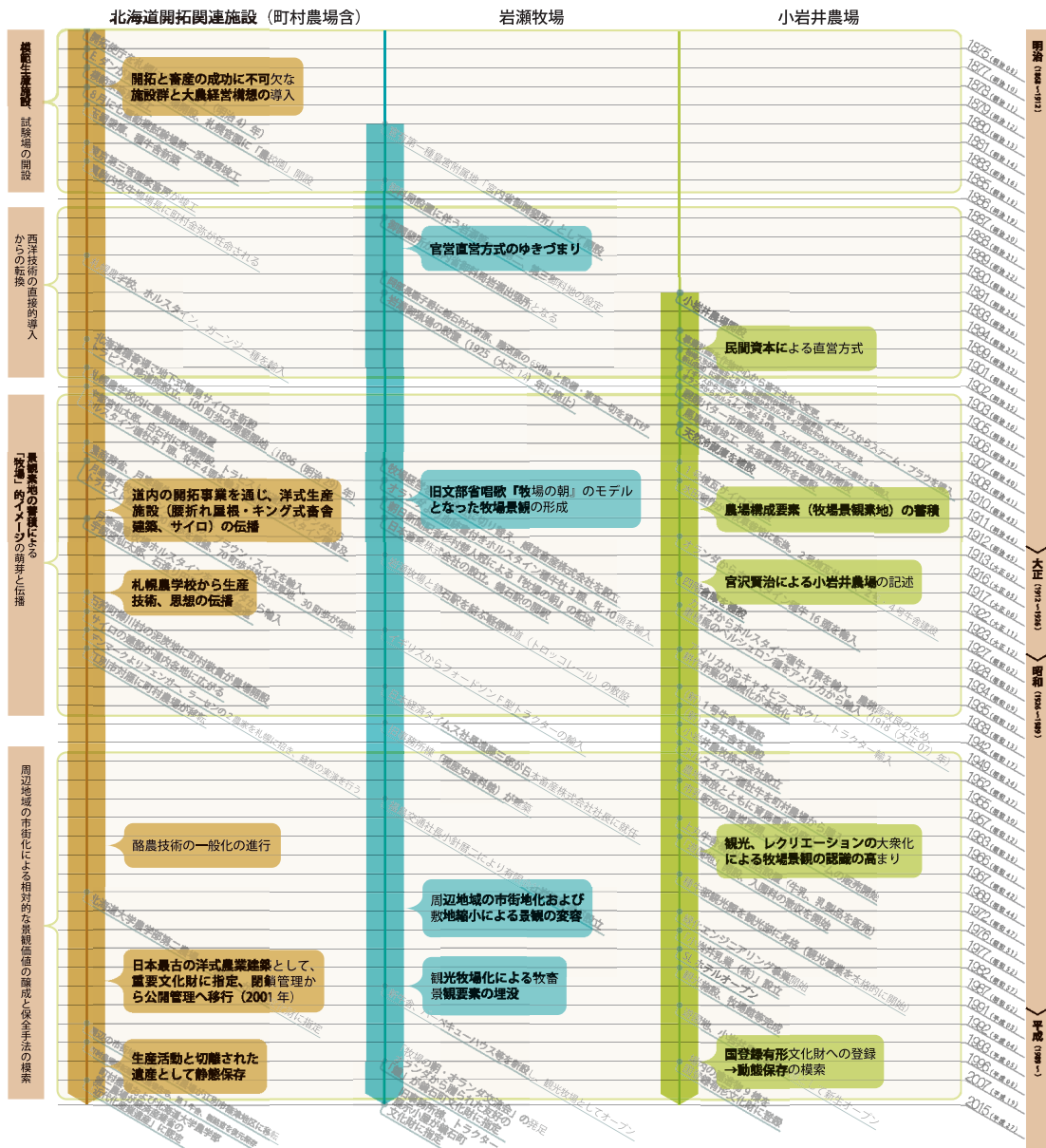


図-1 地域文化及び農畜産業の歴史的展開と各農畜産業施設の関係性整理の試行 (研究成果②『明治期以降に開設され、現存する牧場の歴史的展開について』より)



図-2 歴史的農畜産業施設の位置図の一例
 (研究成果③『北海道七重官園における明治初期農畜産業施設の土地利用の特徴』より)



01 事務所 (★印)	13 温室	25 機械所	37 作小屋	49 玉蜀黍庫	61 看守所
02 消防器械置所	14 製鍊所	26 養豚所	38 作小屋	50 一号板庫	62 生徒舎
03 大工小屋	15 火腿小屋	27 板庫	39 作小屋	51 二号板庫	63 蹄鉄所
04 樹芸仕業小屋	16 旧綿羊舎	28 板庫	40 六号看守所	52 三号板庫	64 馬廄所
05 板庫	17 旧胤馬舎	29 板庫	41 四号看守所	53 作小屋	65 第二家畜房
06 農具置所	18 四戸続看守所	30 肥小屋	42 五号看守所	54 十号看守所	66 当直所
07 葡萄酒醸造所	19 一号看守所	31 七号看守所	43 麻小屋	55 十一号看守所	67 器械所
08 蒸留所	20 旧二号牧馬舎	32 二戸続看守所	44 麻小屋	56 作小屋	68 十五号看守所
09 雑庫	21 旧牧馬舎	33 二戸続看守所	45 七軒長屋	57 十二号看守所	69 作小屋
10 玉蜀黍置所	22 屯集所	34 抄紙所	46 九号看守所	58 作小屋	70 作小屋
11 樹芸舎	23 第一家畜房	35 三号看守所	47 八号看守所	59 十三号看守所	
12 二号看守所	24 生徒舎	36 氷室	48 水車器械所	60 十四号看守所	

図-3 歴史的農畜産業施設一覧の一例
 (研究成果③『北海道七重官園における明治初期農畜産業施設の土地利用の特徴』より)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大島卓	4. 巻 第14巻
2. 論文標題 北海道七重官園における明治初期農畜産業施設の土地利用の特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 札幌市立大学研究論文集	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大島卓	4. 巻 No.346
2. 論文標題 明治期以降に開設され、現存する牧場の歴史的・産業遺産の価値について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 畜産の情報	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大島卓	4. 巻 -
2. 論文標題 明治期以降に開設され、現存する牧場の歴史的展開について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 酪農乳業速報 2018年 夏季特集	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------